

四谷の

千枚田だより



第 186 号

やらにやあ、しよんないでん…と返事が返ってきた。あつ

今 千枚田は建設ラッシュだ…

二月上旬、このバカ寒いにも拘わらず千枚田の百姓衆はあつちこつちで田んぼの畦直しや石積み余念がない。

去年の空梅雨、長雨、台風と散々いじめ抜かれて「まあ、田んぼなんか見るのも嫌になっちゃった」なんて愚痴とつた者も、「誰がそんなことを言っとつただん」と何喰わぬ顔。力丸(動力運搬車)で石を運んでは積み、運んでは積みとセッセと働いておる。いらんことに、大変だのん、ご苦労様と声を掛けたら「毎年の冬仕事でやあ、動けるうちやあ、



ちの方でも鞍掛山から転がってきた田んぼの敷のなまくら石を「セリ矢」で割るなど、にわか九六鍬サが頑張っておる。



この千枚田には先祖から受け継いだ石積名人の武典サが居り、結構面倒見も良くて、教えてもくれるし手伝つてもくれる。ただ、黄門様が始まる三十分前にはサツサと家に返ってしまふ。

そういう時にやあ明日も、この石を割りたいのだが、どおせりやあいだらあかのん…と前もつてお世辞を言っておきやあ、黄門様を録画



してまでも手伝つてくれるお人好しで、棚田のアイドル爺でもある。

耕作者の現状

かつては、三百七十三枚まで減少した千枚田も平成八年、鳳来湖在住の河西忍さんが「こんな、環境でコメづくりをしたい」を契機に、あちこちの休耕田や荒廢地の復田への取り組みが始まり四百二十枚までに蘇った。

巷では、「いつまで続くか」などと揶揄する言葉を小耳にはさむが、なかなか如何して、揶揄する人たちが余所に、冬には田んぼを耕したり畦の補修。春からは稲作はもとより畦畔の草刈り、雑草との戦いと、年がら年中棚田の保全管理に費やしており、お世辞にも楽でもないし、

バカ楽しくもない。それでも「有るものは守らにやあ」の意識で今日も鼻水を吸いながらも頑張っている。現在、四谷の千枚田は二十九戸の耕作者たちの弛まない努力により保全されている。

耕作者

丸山 功 高橋庄一 金古浩一 夏目 宏一 高橋伸治 高橋孝行 古田和男 今泉雅男 今泉 徹 林 義明 稲熊 富平 小山孝夫 中村史樹 小山泰弘 小山傳次郎 小山秀夫 松下 誠 小山舜二 村雲伸一 原田武典 原田 勇 丸地光世 丸地典利 今泉一憲 原田英史 田中幸夫 山中哲郎 高橋 義昌 曹顯

古宿の梅(昨年)



千枚田だよりの反響

一八五号に四十五年も休耕、荒廃した田んぼを復田、と掲載したところ、遠くは茨城県からわざわざ見に来られた。以前にも訪れたことがあろう夫婦で、蘇りをみせる田んぼに感激していた。そこで、この場所は映画「あん」の撮影に訪れた樹木希林さんが「パワーを感じる」と言われた場所であり、同じくパワーを感じるということでも福沢克彦監督の「リーダーズ」のロケにも使われた場所である。と説明したところ、ご夫婦は私たちもパワーを頂いた、また来ます、と大変喜んでいました。

また、この地を故郷に豊田市で暮らす旧姓村雲生俊君も「うれしい」とわざわざ訪ねて来てくれた。

礼 状「四谷の千枚田だよりの一八五号」を楽しく読ませていただきました。コツコツ積み重ねられた歴史は凄いの一言。一言では言い尽くせない多くの人の笑いが千枚田に木霊し、多くの人の汗が千枚田の土にすきこまれていくんですね。人生をかけて守ってこられたからこそある四谷の千枚田。これらが凝縮された「おたより」、そして小山さんに続く若者の出現。やっぱり凄い！

棚田学会 高橋久代

変遷「平成の終わりに」すごい号をまたいただきました。平成の振り返り。棚田保全の歩みは、平成にありましたね。しみじみかつ、さすが、と思いつつ拝読させていただきました。ありがとうございます。

棚田ボランティア石井里津子

研修旅行

二月二十二日、連谷明朗クラブは恒例の日帰り研修旅行を「みかわ温泉海遊亭」を会場に会員二十一名の参加をもって行われた。



海遊亭(西尾市寺部海岸)は三河湾、渥美半島が一望でき、食事も三河湾から水揚げされる海の旬が味わえた。また、江戸時代から庶民に愛され続ける大衆演劇「劇団九州男」の芝居と、舞踊・歌謡ショーを観劇した。

帰路は、海鮮問屋「やますい」で駄沢山のお土産を(村中配るずらか)購入。研修旅行ということでも定番の(舞)による身近な出来事として、「四谷の千枚田」で行っている各種行事への参加をお願いした。身内の研修旅行で、いろいろ、いっぱい話したいことはあるものの、喋ればホラに聞こえるし、ウンザリすることは明らかであり、ピンゴゲムなら(舞)のトロイ話より真剣になるかと景品を用意し、昔はベッピン?だった?女性二人を司会にゲームを始めた。どっこい、皆んな真剣そのもの、高齢者の頭の体操が充分できたようだ。

第五回奥三河パワートレイル

四月七日に実施される奥三河パワートレイルのエイドステーション(前線応急救護所・水分や食べ物(補給場所)として四谷の千枚田「ふれあい広場」が第二関門会場となる。参加選手へのおもてなしとし

てミネアサヒのおにぎりやシン汁、無農薬のお茶などを提供する。

こうした事業、行事は行政区単位に委ねられるが四谷地区は約五十戸の小集落であることと区長も年替わりで、千人規模の選手を取り仕切るには中々難儀なことである。そこで四谷区長、行政から保存会へお願いがあり、一任されました。



諸事情を察し、連谷地域の皆さんの協力を仰ぎ、心地よいおもてなし、応援にご協力をお願いします。

行 平成三十一年三月一日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二